

丘珠空港利活用検討関係者会議

第 1 回 開催報告

1. 議事概要

開催日時：平成 30 年 10 月 31 日（水）13：30～15：30

開催場所：北海道立道民活動センタービル（かでの 2・7）10 階 1030 会議室
（札幌市中央区北 2 条西 7 丁目）

参加者数：委員 9 名、札幌市（事務局）5 名、
北海道（オブザーバー）1 名、
道銀地域総合研究所（事務局）4 名、
報道関係者 6 名、傍聴者 8 名
計 33 名



1. 開会

(1) 挨拶

（札幌市より挨拶）

(2) 委員及び出席者紹介

（紹介、資料確認）

(3) 関係者会議について

（札幌市より資料 1-1 「関係者会議について」、参考資料 1 説明）

2. 議事

(1) 委員長の選任

（石井委員を委員長に選任）

(2) 論点等について

●利活用の在り方

（札幌市より資料 2 「丘珠空港の利活用検討に関する論点等について（試案）」、参考資料 4 説明）

○委員からの意見

<利活用の方向性について>

- ・時間をかけて議論することも重要だが、コンセッションが 2020 年から始まることを踏まえ、例えば 2019 年を目途に議論が完了するよう期限を設けたほうが、

検討の進め方も見えてくると思うので、目途をつけるかどうか検討してほしい。

- ・道内の交通問題を考えると都市部が点在している事や JR の経営状況を踏まえると航空の果たす役割は現在持っているものより大きくなると思う。
- ・世界的に空港周辺の開発という都市計画は無いので難しいと思うが、札幌市として丘珠地区の土地利用計画を検討した上で、次の段階で空港の検討をするというようにステップを踏んでいかなければいけない。
- ・新幹線が札幌まで延伸して、道北や道東と比べ道南との距離が著しく縮まる事により、地域の経済活動が変わってくる。道内航空網の密度を高くし低運賃にする等、ビジネス利用で手軽に使えるようにすることは、地方と札幌との連携を深めるという意味で求められる。
- ・滑走路が整備され、LCC も就航するようになれば札幌に企業が立地するようになり、例えば東南アジアの富裕層が高度医療のために札幌に訪れ、その後道内観光をして帰るというようなことも考えられる。将来を見据え、総合的なまちづくりを考えることが札幌はもとより北海道のためになり住民や次世代のためになる。
- ・騒音での迷惑や、増便への不安の声があるが、利便性の向上のために整備を行っていくのであれば、地元への救済措置も考える必要がある。
- ・東区には核となる地域が無く、今でこそ苗穂駅周辺は非常に都市化しているが、丘珠空港を核としたまちづくりも検討すべき。
- ・まちづくりの視点を当然入れて議論することは、非常に重要。
- ・防災基地としての役割が大きい。
- ・ジェット機の騒音は航空機の技術革新等で以前と比べ大きいとは感じない。冬期間の運用について今後議論していきたい。
- ・災害時の道内の代替交通としての役割が大きく、それを踏まえて今後の利活用検討を進めることが重要。
- ・新千歳空港の混雑や発着枠等の問題を考えると、今後は道内外を問わず札幌圏への路線の新設を考える際には、丘珠空港が選択肢に入ってくる。
- ・機材が小さいことから丘珠空港の利便性や新千歳空港との差別化という観点で路線を成立させていく必要がある。

- ・札幌市民の利便性や民営化の課題である道内航空ネットワークや地域振興、鉄道補完を考えると重要な空港であり、災害時のバックアップという観点でも重要なので、整備を進めていくべきでは。
- ・今後の人口減少や高齢化を考えると、高度医療のための航空機利用が増えることが考えられ、ますます航空の役割が重要になる。
- ・札幌に高度医療が集中している事は地方の都市にとっては非常に魅力となる部分であり、体に負担のかからない飛行機の移動というのは重要な役割である。
- ・先日の地震の際にも、新千歳の代替とまでは言えないが、機能を発揮できたこともあり、この災害対応の役割は必要不可欠である。

<利活用策について>

- ・都心アクセス道路の整備は丘珠空港へのアクセス改善にも有効であり意味があるものと思われる。
- ・樽前山が噴火する等、災害時の新千歳空港の機能停止時に代替機能を発揮できるよう、滑走路の延伸が決まったとしたら液状化対策を併せて考えるべき。
- ・ロープウェイの整備をする等、地域のまちづくりを含めた空港整備を検討してほしい。
- ・ロープウェイの計画には関心がある。空港自体の活用と並行して検討して行かなければ実現は難しいと考える。
- ・道内路線は搭乗率が高く、使いたくても席が取れないとの声もあり、少ない座席数と便数の限界がネックになっている。今後の供給増が大きな課題。
- ・雪の影響で就航率が大きく低下する年もあるため、安定供給を図ることが必要。
- ・現状で実施できる策もあると思うので、短期的に出来るものは進めて、中長期的なものは議論を深め活性化につなげてほしい。

<追加調査について>

- ・道内地方や道外、例えば東北エリアで現在飛んでいる八戸も含め、丘珠空港のビジネス面等の可能性やポテンシャルを調査してみるのも良いかもしれない。

●情報提供及び意見収集

(札幌市より資料2「丘珠空港の利活用検討に関する論点等について(試案)」、参考資料5、参考資料6説明)

○委員からの意見

<情報提供及び意見収集の手法について>

- ・丘珠空港というテーマだと関心のある人は非常に少ないと考えられ、その意見は市民の意見を代表したものではないかもしれないので、オープンハウス等に関心のない人を引き寄せて意見を聞くのは非常に重要。限られた費用と時間の中でサイレントマジョリティに近い方の意見をどう吸い上げるかを検討してもらいたい。
- ・本会議等でもう少し具体的な方向付けをして、それを再度市民のスクリーンを通して意見を聴取することも必要である。
- ・地元説明もそうだが、もう少し広い市民への説明や周知が重要である。
- ・追加調査までは必要ないが、全道の交通機関の拠点である丘珠という視点においては、周辺住民、札幌市民、道民の3層から意見を抽出していくことも必要ではないか。
- ・周辺住民とその他の地域の方とでは、空港のとらえ方に差があるため、例えば丘珠空港周辺の住民と他空港周辺の住民が交流して情報交換し、それを市民に発信することで問題意識を持ってもらうというのも良いと思う。
- ・他都市と空港周辺の住民同士の情報交換は効果的かもしれない。道庁とも議論し検討してもらえれば。
- ・利活用の案の項目が多岐に亘っており、これを市民にきちんと説明するのは時間のかかる作業でありしっかりやらなければいけないことだと強く思っている。
- ・航空機騒音について、単に環境基準を満たしているという話では、一般の方には伝わりにくい。例えば、より日常的な道路騒音と比較するような説明は有効だと思う。
- ・周辺住民として心配なのは安全面や騒音についてであり、丁寧に説明をして理解を深めることが重要。
- ・実施済みの住民説明会について、昔に比べ非常に参加人数が少ないと感じる。丘珠空港の存在が地元にとって日常的になり、関心が無い人が増えたのだと思う。

- ・説明会における地域外の方の出席が多い。以前の説明会でも地域外の方がたくさん意見を言っていた記憶があり、もっと地元から意見が出るような場になれば良いと感じる。
- ・地元への情報提供は回覧板で良いと考える。
- ・過去に取り決めた地元との合意や近年の航空機の技術革新による離着陸性の向上、騒音の改善についての情報を周辺住民に丁寧に説明をして理解を深めることが大事。
- ・航空機騒音の内容は専門的であり一般市民にはわかりづらいところがあるので、わかり易い説明が必要である。
- ・丘珠空港ニュースで各種イベントや就航情報等を発信することは、地元として良い情報提供になっている。
- ・今後、市全体に向けた広報とする場合、どのように展開していくかが課題。
- ・現在の丘珠空港の利用者は非常に限定的で、多頻度利用の方も多い。今後、あまり利用していない方にも関心を持ってもらいながら、利活用を検討して行く必要があり、関心を高めるような取り組みを行う必要がある。
- ・札幌市民の利用者が多いので、特に市民の方に丁寧に説明し、理解をいただきながら利活用を進めていかなければならない。
- ・広く情報提供するとともに様々な意見を聴取すべき。また、声の大きな人の意見に左右されるのは避けるべきである一方、賛成と反対で度合いや切実感が異なる部分もあるので、実質・実態をよく把握して検討する必要がある。

<アンケート調査について>

- ・市民が空港に対してどの程度の理解があるか、アンケートを通じて把握し、今後の市民への広報体制の参考とするべき。
- ・現段階でのアンケートは抽象的な内容にならざるをえない。
- ・利活用策の案は多項目あり、市民からすると反対意見が少ない内容もある。いずれは概略的な計画が出来た段階で整備方法・経費の掛け方等、問題の焦点を絞ったアンケートをする必要があり、そうでなければ皆さんからの意見は吸い上げられないため、それを見極めながら市民参加のプランニングをしていくことが重要だ。

(3) その他

○委員からの意見

<利活用策について>

- ・報告書でも検討しているターミナルの移転については、空港アクセスの改善にもつながる可能性もあるが、もし出来ないのであれば既存の施設の中での充実という形になるため、先に道筋をつける必要がある。
- ・今後、路線や便数が増えた際には給油施設の脆弱性が課題になるとと思われるため検討が必要。
- ・給油施設は当然滑走路延伸の話に必須だと思うので、能力についてきちんと押さえてもらい議論の俎上に載せてもらいたい。またターミナルの移転についても延伸する場合に何が必要かということでは大きな論点になると思うので、移転の検討も含めた議論にしなければいけない。

○事務局

- ・まちづくりとどう連携させるかという、非常に大きな宿題をいただいた。なかなかすぐできることではないが、それらも含めながら検討する必要があることを認識させてもらった。
- ・検討の目途については、7 空港の民営化の動きを見据えて、次回、民営化の動きのスケジュールと、丘珠空港の利活用の検討とのつながり、関わりを示せるよう検討したい。

3. 閉会

挨拶

(事務局より挨拶)

次回会議は来年の1月下旬頃を予定。

以上